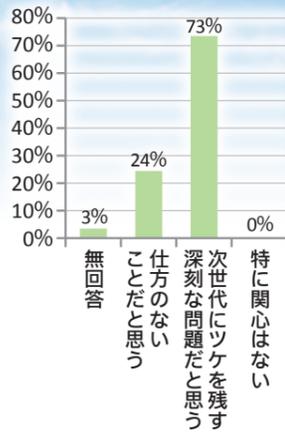


みんなで考えるこれからの公共施設



図2 老朽化が進み、今後必要となる維持管理費について



公共施設の最適化計画を策定

こうしたことを踏まえ、平成29年7月に策定した「甲賀市公共施設等総合管理計画」施設の最適化方針を基にした「公共施設の最適化計画」を令和元年5月に策定しました。40年間で、既存建物の活用や、長寿命化を進めながら公共施設の延床面積を30%削減することを目標に取り組んでいきます。

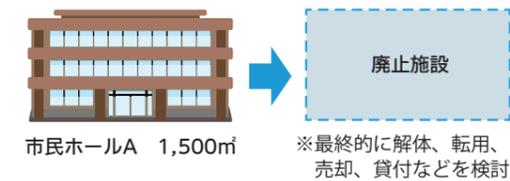
(図2)は、昨年度に各地域で実施したタウンミーティングに参加された方のアンケート結果です。

参加者は年代や性別、地域に若干の偏りがありましたが、その7割以上の方が今後の公共施設の維持管理費は「次世代にツケを残す深刻な問題だ」と思う「と」回答されていることから、公共施設のあり方は皆さんの中でも重要視されている課題です。

最適化に向けた考え方

【1】廃止

その用途での使用を止めること。

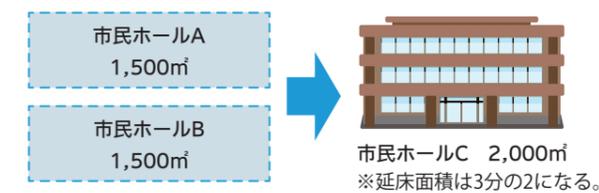


【2】集約化(統合)

同じ用途の施設を1つにまとめること。

○パターン1

集約化(統合)対象の両方を廃止して新たな施設を建設する場合



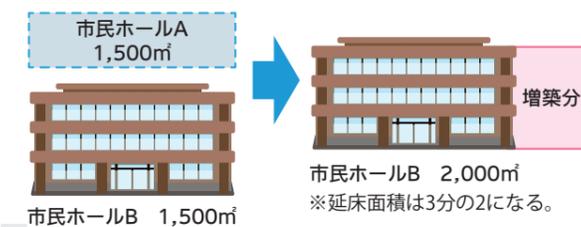
○パターン2

片方の施設を廃止し、もう一方の施設に吸収する場合



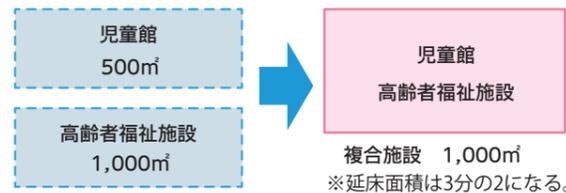
○パターン3

片方の施設を廃止し、もう一方の施設に吸収し、その際に増築をする場合



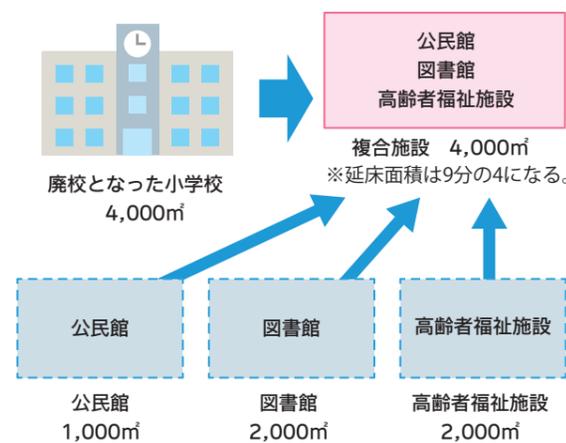
【3】複合化

用途の異なる複数の施設を1つの建築物にまとめること。



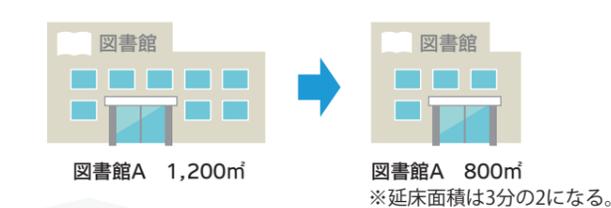
【4】転用

廃止した施設を別用途の施設に変えること。



【5】建替え、改修時の規模縮小

老朽化した建築物を建替え、改修する際に、これまでの延床面積よりも少ない延床面積で建替えること。

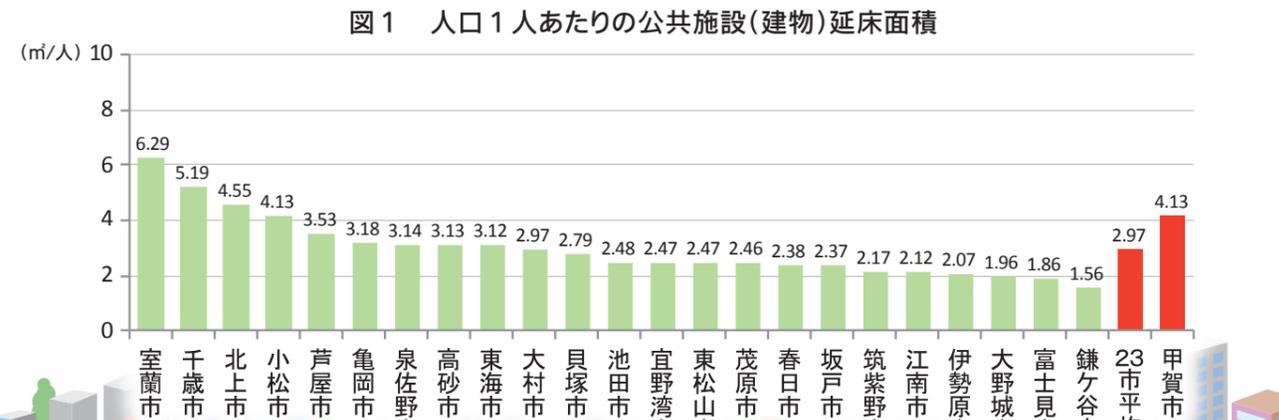


現在、市が保有する公共施設には学校、病院、市民文化・社会教育、子育て支援などの施設があり、その約50%の施設については築年数が30年〜40年以上です。

合併して15年が経過しました。公共施設の維持・管理には多額の費用がかかります。生産年齢人口(15歳〜64歳)の減少など人口構造が変化していく中、旧町から引き継いできた施設を今後も維持していくには財政的にも限界があることから、未来に負担を残さないよう長期的な視点での効率化が求められています。

みんなでこれからの公共施設のあり方を考えてみましょう。

人口1人あたりの公共施設延床面積は『4.13㎡』



※上記グラフは人口が同規模で、平成の合併を行っていない自治体を抽出して比較したものです。